

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号 29-6	学 校 高等学校	教 科 国語科	種 目 古典A	学 年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
183 第一	古 A 316	高等学校 改訂版 古典A 大鏡 源氏物語 諸家の文章		

<p>1. 編修の基本方針</p> <p>教育基本法第2条ならびに高等学校学習指導要領に示された目標を達成し、学習内容の十分な実現達成をはかり得る、標準的な教科書として編修した。</p> <p>1. 古典や近現代のすぐれた文章に触れることによって、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、言語文化の伝統を理解し、豊かな感性や情緒を育むことができるようにした。</p> <p>2. 生徒が自主的・主体的に学習活動を行うことにより、思考力・判断力を養い、自発的・創造的な人間形成に進むことができるよう考慮した。</p> <p>3. すべての学習の根幹といえる言語の教育としての国語科の立場を重視し、社会で求められる言語力を身に付けさせるとともに、言語文化の理解と享受を通して、古典に親しむ態度を養うことができるよう配慮した。</p>																						
<p>2. 対照表</p>																						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">図書の構成・内容</th> <th style="width: 50%;">特に意を用いた点や特色</th> <th style="width: 25%;">該当箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6" style="vertical-align: top; padding: 5px;">古文編・漢文編</td> <td style="padding: 5px;">古典としてすぐれた作品を採録し、教材を味読することを通して豊かな情操と道徳心を養うことができるよう配慮した(第1号)。</td> <td style="padding: 5px;">p 6～146, p 158～182</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">古典における、真理を探究するさまざまな姿を示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけるように考慮した(第1号)。</td> <td style="padding: 5px;">p 6～146, p 158～182</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">「言語活動」を設定し、具体的な学習テーマと事例を示すことで、生徒が主体性を発揮して課題に取り組めるようにした(第2号)。</td> <td style="padding: 5px;">p 8, p 11, p 13, p 18, p 37, p 92, p 141, p 146, p 148～156</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">古典における理念や社会秩序についての基本的な考え方に深く関わる題材を採録し、生徒が現代の社会や人間関係にも共通する問題として考えを深められるようにした(第3号)。</td> <td style="padding: 5px;">p 6～134, p 158～182</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">生命や自然に深く関わる題材を採録し、表現を吟味する活動を通して、生命・自然を尊重する態度を養えるよう配慮した(第4号)。</td> <td style="padding: 5px;">p 6～134, p 158～182</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">主として評論教材を通して、生徒が先人にならって言語文化に対する考えを深められるようにした(第5号)。</td> <td style="padding: 5px;">p 136～146</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">主要な単元に作品解説のページをもうけて作品・作者について概説し、我が国の伝統的な言語文化を解説し、興味・関心を喚起できるようにした(第5号)。</td> <td style="padding: 5px;">p 5, p 19, p 39, p 95, p 125</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">「伝統と文化」をはじめとした「言語活動」を設定して、我が国の伝統的な言語文化について理解を深めるとともに、古典に親しむ態度を養うことができるように配慮した(第5号)。</td> <td style="padding: 5px;">p 8, p 11, p 13, p 18, p 37, p 92, p 141, p 146, p 148～156</td> </tr> </tbody> </table>	図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所	古文編・漢文編	古典としてすぐれた作品を採録し、教材を味読することを通して豊かな情操と道徳心を養うことができるよう配慮した(第1号)。	p 6～146, p 158～182	古典における、真理を探究するさまざまな姿を示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけるように考慮した(第1号)。	p 6～146, p 158～182	「言語活動」を設定し、具体的な学習テーマと事例を示すことで、生徒が主体性を発揮して課題に取り組めるようにした(第2号)。	p 8, p 11, p 13, p 18, p 37, p 92, p 141, p 146, p 148～156	古典における理念や社会秩序についての基本的な考え方に深く関わる題材を採録し、生徒が現代の社会や人間関係にも共通する問題として考えを深められるようにした(第3号)。	p 6～134, p 158～182	生命や自然に深く関わる題材を採録し、表現を吟味する活動を通して、生命・自然を尊重する態度を養えるよう配慮した(第4号)。	p 6～134, p 158～182	主として評論教材を通して、生徒が先人にならって言語文化に対する考えを深められるようにした(第5号)。	p 136～146	主要な単元に作品解説のページをもうけて作品・作者について概説し、我が国の伝統的な言語文化を解説し、興味・関心を喚起できるようにした(第5号)。	p 5, p 19, p 39, p 95, p 125	「伝統と文化」をはじめとした「言語活動」を設定して、我が国の伝統的な言語文化について理解を深めるとともに、古典に親しむ態度を養うことができるように配慮した(第5号)。	p 8, p 11, p 13, p 18, p 37, p 92, p 141, p 146, p 148～156		
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所																				
古文編・漢文編	古典としてすぐれた作品を採録し、教材を味読することを通して豊かな情操と道徳心を養うことができるよう配慮した(第1号)。	p 6～146, p 158～182																				
	古典における、真理を探究するさまざまな姿を示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけるように考慮した(第1号)。	p 6～146, p 158～182																				
	「言語活動」を設定し、具体的な学習テーマと事例を示すことで、生徒が主体性を発揮して課題に取り組めるようにした(第2号)。	p 8, p 11, p 13, p 18, p 37, p 92, p 141, p 146, p 148～156																				
	古典における理念や社会秩序についての基本的な考え方に深く関わる題材を採録し、生徒が現代の社会や人間関係にも共通する問題として考えを深められるようにした(第3号)。	p 6～134, p 158～182																				
	生命や自然に深く関わる題材を採録し、表現を吟味する活動を通して、生命・自然を尊重する態度を養えるよう配慮した(第4号)。	p 6～134, p 158～182																				
	主として評論教材を通して、生徒が先人にならって言語文化に対する考えを深められるようにした(第5号)。	p 136～146																				
主要な単元に作品解説のページをもうけて作品・作者について概説し、我が国の伝統的な言語文化を解説し、興味・関心を喚起できるようにした(第5号)。	p 5, p 19, p 39, p 95, p 125																					
「伝統と文化」をはじめとした「言語活動」を設定して、我が国の伝統的な言語文化について理解を深めるとともに、古典に親しむ態度を養うことができるように配慮した(第5号)。	p 8, p 11, p 13, p 18, p 37, p 92, p 141, p 146, p 148～156																					

付録等	<p>見返し・口絵は，写真・地図・図版を中心に参考資料を用意し，古典読解に必要な知識を身に付けるとともに，伝統と文化の理解を通して，古典に親しめるよう配慮した（第1号・第5号）。</p> <p>付録として「文語文法要覧」「古典文学史略年表」「『大鏡』参考年表」「『源氏物語』参考年表」「『源氏物語』参考系図」等を，折込として「皇室略系図」「藤原氏略系図」を採録し，古典読解に必要な知識を身に付けるとともに，言語を中心とする伝統的な文化について，興味・関心を喚起できるようにした（第1号・第5号）。</p>	<p>見返し・口絵</p> <p>p 184～192，折込</p>
-----	--	-----------------------------------

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学校教育法第51条1号「国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」，また，第3号「社会について，広く深い理解と健全な批判力を養い，社会の発展に寄与する態度を養うこと」等の目標を踏まえ，各編の各教材の最後に「学習」として課題を用意し，話し合いを含む多様な学習活動を設定した。教材の主題に対する理解を深め，自らの考えを的確に表現する能力を養うとともに，生徒相互の意見交流を通じて，多角的で客観性のある批判的思考能力を養えるよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号 29-6	学 校 高等学校	教 科 国語科	種 目 古典A	学 年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
183 第一	古 A 316	高等学校 改訂版 古典A 大鏡 源氏物語 諸家の文章		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1. 学習指導要領の総則に示す教育の方針や教科としての「古典A」の目標を達成するために、次のような配慮をし、ふさわしい教材を用意した。
 - (1) 単元構成、教材選定などにおいては、教育現場の意見・要望を尊重し、学習指導の実態に即応できるように考慮した。「国語総合」および「古典B」における指導内容との一貫性を図りながら、古典としての古文・漢文および古典に関する文章を読み進めることにより、我が国の伝統と文化についての理解や関心を深めるとともに、古典に親しむ態度を養うことを意図して編修した。
 - (2) 生徒が自主的・主体的に学習活動を行うことにより、言語文化の理解・享受を通して、自発的・創造的な人間形成に進むことができるよう考慮した。
2. 「3 内容」について、次のような配慮をし、ふさわしい教材を用意した。
 - (1) 「指導事項」については、古典として価値のある作品の中から、当時の人間、社会、自然などがよく描かれ、それらに対する作者や登場人物の思想や感情を十分に読み味わうことのできるものを教材として選定し、学習内容が十分に達成できるようにした。
 - (2) 「言語活動例」については、読むことの学習と有機的に関連させながら行うことができるように配慮したほか、主として「言語活動」を通してまとまった学習ができるよう工夫した。
 - ア 古文や漢文の調子などを味わいながら音読、朗読、暗唱をすること。→主として教材の「学習」を通して、読むことの学習と有機的に関連させながら行うことができるように配慮した。
 - イ 日常の言語生活の中から我が国の伝統と文化に関連する表現を集め、その意味や特色、由来などについて調べたことを報告すること。→「伝統と文化」(p. 148～156)、『完璧帰趙論』(p. 165～167)、『徐公長者』(p. 168～170)、『織女』(p. 172～173)、『壺中天』(p. 180～182)
言語の変遷・由来などについて調べることを通して、古典への関心を深めるとともに、古典に親しむ態度を育てることができるように配慮した。
 - ウ 図書館を利用して古典などを読み比べ、そこに描かれた人物、情景、心情などについて、感じたことや考えたことを文章にまとめたり話し合ったりすること。→「渚の院」(→p. 8)、「旅寝の夢」(→p. 11)、「はいずみ」(→p. 18)、「二葉の葵」(→p. 37)、「紫の上をしのぶ」(→p. 92)、「毎月抄」(p. 141)、「源氏物語玉の小櫛」(→p. 146)
「読み比べ」の対象としては、異なる時代・文種の作品を提示して、広く読書に親しみ、調査・発表する態度を養うことができるようにした。
3. 「3 内容の取扱い」について、次のような配慮をし、ふさわしい教材を用意した。
 - (1) 古文と漢文の両方又はいずれか一方を取り上げることができる。→古文と漢文の両方を取り上げ、合冊形態として、生徒の発達段階に応じて学習できるよう、古文編と漢文編とが独立した構成にした。
 - (2) 古典を読む楽しさを味わったり、伝統的な言語文化に触れることの意義を理解したりすることを重視し、古典などへの関心を高めるようにする。→言語活動において、我が国の伝統的な言語文化について興味・関心を喚起できるようにしたほか、付録・見返し・口絵・折込にも参考資料を用意した。
 - (3) ア 教材は、特定の文章や作品、文種や形態などについて、まとまりのあるものを中心として適切に取り上げること。→古文のジャンルとしての「物語」を中心に教材を選定した。
イ 教材には、古典に関連する近代以降の文章を含めること。また、必要に応じて日本漢文、近代以

降の文語文や漢詩文などを用いることができること。→「伝統と文化」(p.148～156)

ウ 「教材選定の具体的な観点」に即して次の内容を用意した。

- (ア) 古典を進んで学習する意欲や態度を養うのに役立つこと。→古文編・漢文編(p.6～182)
なお、特に漢文の教材化にあたっては、本教科書が3年生での使用を想定して編集していることを考慮し、1・2年生までの学習において習得しておくべき漢文の基本的な読み方には、あえてルビを施さないようにした。
- (イ) 人間、社会、自然などに対する様々な時代の人々のものの見方、感じ方、考え方について理解を深めるのに役立つこと。→古文編・漢文編(p.6～182)
- (ウ) 様々な時代の人々の生き方や自分の生き方について考えたり、我が国の伝統と文化について理解を深めたりするのに役立つこと。→古文編・漢文編(p.6～182)
- (エ) 古典を読むのに必要な知識を身に付けるのに役立つこと。→古文編・漢文編(p.6～182)
- (オ) 現代の国語について考えたり、言語感覚を豊かにしたりするのに役立つこと。→「伝統と文化」(p.148～156), 『完璧帰趙論』(p.165～167), 『徐公長者』(p.168～170), 『壺中天』(p.180～182)
- (カ) 中国など外国の文化との関係について理解を深めるのに役立つこと。→『大鏡・道長と伊周』(p.34～35), 『源氏物語・薫の五十日の祝ひ』(p.86～89), 『平家物語』(p.94～101), 『とりかへばや物語』(p.102～113), 『古今和歌集仮名序』(p.136～137), 「源氏物語玉の小櫛」(p.144～146), 『完璧帰趙論』(p.165～167), 『徐公長者』(p.168～170), 『織女』(p.172～173), 『壺中天』(p.180～182)

2. 対照表

学習指導要領 の内容		指導事項					言語活動例			配 当 時 数
		ア 取 り こ す こ と	イ 言 葉 と 現 代 の 言 葉 と の つ な が り に つ い て 理 解 し た り す る こ と	ウ 古 典 な ど を 読 ん で 、 言 語 文 化 の 特 質 に つ い て 理 解 す る こ と	エ 伝 統 的 な 言 語 文 化 に つ い て の 課 題 を 設 け 、 様 々 な 資 料 を 読 ん で 探 究 し て 、 我 が 国 の 伝 統 と 文 化 に つ い て 理 解 を 深 め る こ と	オ 古 文 や 漢 文 の 調 子 な ど を 味 わ い な が ら 音 読 み 、 朗 読 、 暗 唱 を す る こ と	カ 日 常 の 言 語 生 活 の 中 か ら 我 が 国 の 伝 統 と 文 化 に 関 連 す る 表 現 を 集 め 、 そ の 意 味 や 特 色 、 由 来 な ど に つ い て 調 べ た こ と を 報 告 す る こ と	ク 図 書 館 を 利 用 し て 古 典 な ど を 読 み 比 べ 、 そ こ に 描 か れ た 人 物 、 情 景 、 心 情 な ど に つ い て 感 じ た こ と や 考 え た こ と を 文 章 に ま と め た り 話 し 合 わ り す る こ と		
図書の内容 該当箇所・ページ										
伊勢物語・渚の院	6～8	○	○			○				
言語活動	8	○	○	○	○			○		
伊勢物語・さらぬ別れ	9	○	○			○				
大和物語・旅寝の夢	10～11	○	○			○				
言語活動	11	○	○	○	○			○		
大和物語・いはで思ふ	12～13	○	○			○				
言語活動	13	○	○	○	○			○		
堤中納言物語	14～18	○	○			○				
言語活動	18	○	○	○	○			○		
大鏡・時平と道真	20～22	○	○			○				
大鏡・村上天皇と中宮安子	23～25	○	○			○				
大鏡・関白は次第のままに	26～27	○	○			○				
大鏡・兼通と兼家の不和	28～30	○	○			○				
大鏡・道隆の酒好き	31～33	○	○			○				
大鏡・道長と伊周	34～35	○	○	○		○				
大鏡・二葉の葵	36～37	○	○			○				
言語活動	37	○			○			○		
大鏡・師輔の吉夢	38	○	○			○				
源氏物語・藤壺の宮の入内	40～43	○	○			○				
源氏物語・夕顔の死	44～47	○	○			○				
源氏物語・藤壺の宮との過ち	48～50	○	○			○				
源氏物語・物の怪の出現 —葵の上の出産—	51～54	○	○			○				
源氏物語・野宮の別れ	54～58	○	○			○				
源氏物語・明石の君との出会い	59～61	○	○			○				
源氏物語・須磨の絵日記	62～64	○	○			○				
源氏物語・明石の君の苦悩	65～68	○	○			○				
源氏物語・六条院の新春	70～72	○	○			○				
源氏物語・螢火のいたづら	73～76	○	○			○				

